



2015 紀の国わかやま大会

第15回全国障害者スポーツ大会 躍動と歓喜、そして絆

審判(副)委員長
氏名： 谷口 和久
確認： <input checked="" type="radio"/> 済

バレーボール競技 戦評用紙

種別	精神障害者の部	会場	田辺市体育センター
----	---------	----	-----------

平成 27 年 10 月 25 日 日曜日 第 2 日目

A コート 第 9 試合

1回戦
 交流試合
 準決勝
 3位決定戦
 決勝

◎試合結果

勝利チーム	{ 22 - 25 25 - 20 25 - 17 }	} 1 大阪府 都道府県 指定都市名
横浜市 2		
都道府県 指定都市名		

【審判員】

主 審： 谷口 和久 副 審： 新川 薫

記録員： 山本 莉沙 A・S： 前地悠佳里・那須正樹

【戦 評】

記載者： 坂本哲司 (戦評委員)

昨年の決勝と同じ組み合わせ。横浜市は4連覇を、大阪府は昨年の雪辱を果たしたいところである。決勝戦らしくお互いが点を取り合う拮抗した展開が中盤まで続く。先に横浜市が1番林選手の3連続スパイクで18-14と抜け出すが、大阪府も粘りのレシーブで18-18に追いつき、終盤には3番立岡選手のバックアタックなど5連続得点で第1セットをものにし、頂点に王手をかける。

第2セット、横浜市は1番林選手のフェイントなど緩急をつけた攻撃で8-1とスタートダッシュに成功する。大阪府は序盤でタイムアウト2回を使い果たす苦しい展開となるが、攻撃パターンを速攻に切り替えたことが功を奏し4番北川選手のスパイクなどが冴え、中盤には14-14に追いついた。しかしここは試合巧者の横浜市。11番白鳥選手にボールを集め、それを確実に得点に繋げ第2セットを25-20で奪い返し逆王手をかけた。

運命の第3セット、2セット目と同じく横浜市は序盤に9連続得点をもぎ取り終始有利な展開で試合を運ぶ。一時は12点差まで広がり「勝負あり」に思われたが、大阪府も意地を見せ6連続得点で23-17と諦めない姿勢を見せた。しかし最後は大阪府の連携ミスでボールがコートに触れ、この瞬間横浜市の4連覇が決定した。大阪府はまたしても横浜市の前に涙をのんだが、両チームの精一杯の素晴らしいプレーに会場は惜しめない拍手を送り、白熱した2日間の戦いに幕を閉じた。

150

300